



目	次	頁
1 . 支部長ご挨拶	白木 博明 (昭和 2 3 年卒)	1
2 . 大学の近況について	名古屋大学大学院工学研究科機械情報システム工学専攻 教授 田中 英一 (昭和 4 7 年卒)	2
3 . 特別寄稿 2 1 世紀の技術革新	松下電器産業(株) 客員 新田 恒治 (昭和 3 5 年名大理学部化学科卒)	3
4 . 第 6 回 会員訪問	大阪大学大学院工学系研究科電子制御機械工学専攻 教授 白井 良明 (昭和 3 9 年卒) 訪問者 聞き手 白木 博明 (昭和 2 3 年卒) 記録 和田 滋憲 (昭和 4 3 年卒)	5
5 . 我が生涯学習 (ホビー) 邦楽と私	上川 昭 (昭和 2 7 年卒)	10
6 . インフォメーション	名古屋大学博物館	11
7 . 会員寄稿		
7 - 1 名古屋大学遠州会について	乾 昇 (昭和 2 3 年卒)	12
7 - 2 東山会に入会して 3 6 年が経過しました (雑感)	塩野義製薬(株)若山 義兼 (昭和 4 1 年卒)	13
7 - 3 産学官連携について	京都市リサーチパーク(株)菊田 隆 (昭和 4 5 年卒)	14
8 . 会員消息		15
9 . 平成 1 3 年度支部総会報告	幹事 荻原 稔蔵 (昭和 4 3 年卒)	16
10 . 平成 1 3 年度支部会計並びに監査報告	会計幹事 山田 晃 (昭和 3 3 年卒) 会計監査幹事 森瀬 和信 (昭和 2 8 年卒)	19
11 . 東山会関西支部便り過去 6 年間の主要記事・記録一覧		20
12 . 編集後記		22
13 . 平成 14 年度支部役員名簿		23

# 1 ご挨拶——工学部創立 60 周年及び

全学同窓会の発足を祝って——

支部長 白 木 博 明 (昭和 23 年率)



簡潔に以下の 2 点をご報告しご挨拶に代えさせていただきます。

## 第 1 点は

名古屋大学工学部創立 60 周年記念祝賀行事と全学同窓会設立総会が 10 月 27 日(日) 同時に開催されることが、この支部報が届く頃、本部よりご案内される予定です。役員候補として、会長、副会長が内定しています。

会 長	豊田章一郎 (トヨタ自動車名誉会長	工)	
副会長	太田 和宏 (豊田紡織会長	工)	
”	岡田 邦彦 (松坂屋社長	経)	
”	柴田 昌治 (日本ガイシ会長	法)	
”	寺沢 宏 (中部電力副社長	経)	
”	丹羽宇一郎 (伊藤忠社長	法)	
”	斎藤 英彦 (国立名古屋病院院長	医)	以上 敬称 略

設立委員長は伊藤義人現図書館長が就任され発足後は代表幹事に就任予定

## 小委員会構成

事業小委員会 (委員長:経済学部)

経理小委員会 (委員長:医学部)

名簿小委員会 (委員長:理学部)

会長、副会長の二人は共に東山会員で、豊田章一郎会長が積極的に関与される非常に重い同窓会となると聞いています。

東山会にとっても名誉なことであり、同時に責任の重さを感じます。

## 第 2 点は

支部会員の同窓会に対するの関心度が今一つの点です。関西支部関係の住所登録者約 300 名に総会や行事案内を差し上げていますが、総会出席者は約 30 名、年会費納入者は約 100 名です。返信もないが、郵便は届いていると思われる方が 2/3 のあります。いろいろの事情もあり、同窓会の在り方にも、批判もあるかと思いますが、ぜひとも率直な意見を同封の葉書でお知らせ頂きたい。本号では幹事諸氏のご努力で新しい方の投稿があり、ジェネレーションギャブを無くして行きたいと強く感じています。

末筆ながら日ごろのご支援ご指導に対して感謝申し上げますとともに、ご健康、ご多幸を祈念致します。

(平成 14 年 2002 年度支部便り平成 14 年 8 月記)



## 2. 大学の近況について

名古屋大学大学院工学研究科  
機械情報システム工学専攻 教授 田中 英一  
(昭和47年卒)

最初に、名古屋大学東山キャンパスの最近の様子をご紹介します。昨年度工学部新1号館増築部分が完成しましたが、今年度は工学部新2号館が完成し、電気・電子・情報系の専攻が2号館北館から移転しました。今年度は2号館改築の補正予算がつき、12月から工事が始まっています。年度末を目処に北館と中館の工事を完成し、現在南館にいる機械の一部と電子機械が来年5月に移転する運びとなっています。その後南館の改築にかかり、来年11月頃には、3号館から機械の残りと航空が2号館に移る予定です。移転に際しては、現在各専攻が所有する面積の2割を共用部分に供出し、そして競争的資金を獲得した研究室にその共用部分を使用する権利を与える制度とするよう文部科学省の強い指示がきていて、より一層の狭隘化に対する対応に苦慮しております。

組織関連では、今年度から環境学研究科(3専攻21基幹講座)が設置されました。理科系と文化系の枠を越えた研究科であり、工学研究科からは建築学専攻の全部と土木工学専攻と地圏環境工学専攻の約半分が都市環境学専攻に移りました。また、現在情報学研究科(仮称)の設置に向けて努力しております。

最近の話題としては、まずトヨタ寄附講座の終了があります。この講座はトヨタ自動車(株)のご寄付により、1996年4月から2000年3月までの4年間、機械工学専攻に設置されたもので、バイオメカニクスや傷害防止工学関連の教育と研究を担当しました。その間、国内外の研究機関と多くの共同研究を実施し、2回の国内シンポジウムと1回の国際シンポジウムを開催しました。

次に9月に実施した自己評価・外部評価についてご報告します。機械系専攻では、まず最近5年間の研究・教育活動に対し、500ページにも及ぶ自己評価報告書を作成しました。そして2名の外部評価委員を委嘱し、事前審査、ヒアリング、実地調査をお願いして、専攻のこれまでの実績と今後進むべき方向に対し、忌憚のないご意見をいただきました。来年度は教育活動に対し、予算額に反映するときく大学評価・学位授与機構による外部評価を受ける予定です。

最後に、東山会を挙げて募金に協力させていただいた島田先生が、米国で心臓移植手術を受けられ、お元気になられて日本に帰国されたことをご報告させていただきました。そして募金の母体となった島田先生を助ける会と、島田先生ご自身からのご報告とお礼状を披露させていただきました。

今後大学は大変厳しい時代を迎えようとしております。今までにも増して皆様方の温かいご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。



### 3. 21世紀の技術革新 ～情報技術革命の視点から～

松下電器産業（株）客員 新田恒治（昭和35年名人理学部化学科卒）

本講演では、今日の社会基盤となる情報や通信技術を歴史的に触れながら、21世紀の技術革新と産業について一考する。

最初の情報革命は15世紀半ばのグーテンベルグによる何度も繰り返して使える金属活字印刷の発明である。この人発明が人きなトリガーとなって、今日の科学技術基盤の確立や国家概念、産業構造や経済成長の源となる今日まで400年に及ぶ壮大な産業革命などをもたらした。

私達は再び新しい情報環境の中にある。それは今猛烈な勢いで様変わりを見せ、いまだ止まるどころを知らない様々な情報メディアと通信ネットワークの環境である。この新しいデジタル情報革命は、最初のルネサンス印刷情報革命以上に、その奥は深い。今やインターネットにより国境を越えての交流が始まっている。現在1日の電子メール数は10億通を越え、また1日のWWWページビューもゆうに100億ページを越えている。さらにまた衛星放送も100Chを越え、 $1.0 \times 10^{15}$ （1テラ）ビット/日の情報量に速する。再びこれまでの「モノ」中心の社会から、「情報」中心の情報ネットワーク社会と呼ばれるこれまでに全く経験したことのない新しい段階に突入したのである。

今の予想でいくと、2025年の世界人口は85億人になるといわれ、そのうちの71億人が現在発展途上国といわれる国で占められる。日本とヨーロッパ以外の国は若返りをし、発展途上国においては、20歳以下の人口が1999年に2億人を越えた。しかもこの世代の約3/4は教育を受けていて、大変勤勉で、発展指向である。今後消費パターンは急激に変化し、発展途上国の割合が人きくとなると予想される。現在私どもが利用している天然資源の可採年数にも影響が出てくる。

環境問題についても、現在の人口と経済活動の水準でも速球環境の持続は不可能に近く、今後10数年で、危機的な状態になるものと思われる。何とんでも、先速国中心に、現在の資源消費型経済システムに起因する経済成長・資源消費・環境問題というトリレンマを、資源を循環させ、環境保護の維持と回復に努め、なお経済成長を図るという資源循環型経済システムを確立しなければならない。先速国は資源のフローを先ず4倍の効率で利用するファクター4、つまり現在よりも75%物質を制約し、さらに子孫に資源を残していくためには、ファクター10にしなければならない。環境経営では、環境と経済の両面での効率と向上を示す概念が環境効率である。一言で述べると、「少ない資源で、多くの成果に」ということになる。

このように、全地球人が平等に均質な情報を求めれば、地球はエネルギーや食料、そして各種材料等の不足がたちどころに生じるのが現実である。

したがって、情報・通信技術に加えて、新しいクリーンなエネルギー技術、食料の確保や新しい医療等の生命技術、そして再生利用を含めた新素材技術という少なくともこの四人技術とそれらの産業が重畳しながら発展しない限り、グローバル情報ネットワーク社会は速成し得ないであろう。この情報ネットワーク化は、単に流れが速いだけでなく、行きつく時代も相当先であると考え。この情報革命は単なる変化だけでなく、新しい次なる産業革命を引き起こすトリガーであり、人革命であり、歴史の人断層といっても過言ではない。

一方これらの視点で捉えると、現状の科学技術はなお未熟である。これら技術の基礎となっている科学が「壁」にぶつかり始めたということである。

今日の科学技術や産業、文明社会を支えてきた中心の概念は、文字通り、エネルギーである。科学の分野でいえば、物理学である。物理学を中心に科学技術も構築され、今日の文明社会も出来上がってきた。「自然に挑戦して、あの太陽の莫大なエネルギーを私どもはどうやったら手に入れることができるか」という課題は人類の永遠の目標である。

私ども生態系はあの太陽の爆発による莫大なエネルギーによって活動している。これからの科学技術は生命体に関するあらゆるメカニズムを明らかにしないと、次なる新しい産業や新しい企業も生まれてこない。また文明の限りなき速展もあり得ない。再び謙虚に、「自然から学ぶ」あるい

は「生物から学ぶ」の下に、物理学から生物学への展開が今日の大きな流れであると考える。

例えば、今日のエレクトロニクスの隆盛も 20 世紀初頭からの量子力学を中心とした固体物理学の発展に基づいている。特に、半導体の進歩には目覚ましいものがある。MPU の処理速度、メモリーの容量、あるいは通信モデムの伝送容量等いずれも対数的に増加している。しかし、現在の技術の延長では、今後のエレクトロニクスデバイスに課せられた期待、例えば、LSI の設計ルールやクロック周波数、記録密度、回路実装密度等に応えることが難しくなってきた。おそらくこの数年の間に現在の技術は「壁」にぶつかり始める。

人間の全遺伝情報（ヒトゲノム）がほぼ解読された。最初のクローン羊「ドリー」の誕生等驚きと共に未恐ろしさを感じる。21 世紀には、生命操作が飛躍的に進むことが予想される。

生命体の元素構成は比較的単純であるが、その正体はごく一部しか解明されていない。生物は 35 億年の歴史があり、その間に外界からの刺激や環境変化に対して、学習性や免疫性を確保し、個体が一つの系として有機的に働く仕組みを獲得した。生物を形作る細胞や組織・器官、個体からそれぞれの階層で、素材やエネルギー変換、センサー機能、情報の記憶・伝達といった学ぶべき多くのポイントがある。さらに精神的な領域における認識・判断・推論の研究は今後の情報処理技術に大きな影響を与えるであろう。

生物を構成し、生命活動を支えているのは、蛋白質や核酸などである。その活動の根源の極めて小さいことには驚かされる。蛋白質や核酸などによって作られる生物の基本単位のサイズはナノメータ (nm) オーダであり、既にそこではあらゆることが行われている。身近な例では、筋肉はアクチン繊維とミオシン繊維がアデノシン 3 磷酸 (ATP) のエネルギーを用い、滑り力を出している。このミオシンの力を出している部分のサイズは 10 ~ 20 nm である。また最近発表された細菌の運動器官である鞭毛は回転モータと螺旋形のスクリュからなり、数 10nm の大きさで、推進力発生や方向転換の機械を実践している。このように、生命体を形作っている材料である蛋白質の基本の大きさは nm であるが、これらは制御用の蛋白質を取り込みながら、秩序だった構造を作り上げ、巨大な機能体を自己集合的に形成している。つまり DNA や細胞膜、先述の筋肉繊維の基本単位であるアクチンやミオシン、あるいは鞭毛モータなどを形成し、遺伝情報を記録し、分子機械と呼ばれるような機能を出して、基本的な生命現象を担っている。すなわち生物の世界では、nm オーダの分子を用いた大規模な機能構造体が外部からの操作を受けることなく実現されることを示している。生命体は驚くべき存在であり、その解明に向けての研究活動をもっと進めなければならない。

ここで紹介した生物学分野もここ 50 年で飛躍的な発展をし、新しい遺伝子学や分子生物学などと進化して、生命体の中身が次第に明らかになってきた。合わせて、これらの技術の応用も同時に進められ、新しい産業を生み出す原動力となってきた。

ルネサンスでは、「自然から学ぶ」が基本姿勢であった。しかし、その後の産業革命による工業化社会形成に大いに役割を果たしてきた科学技術は物理学主体である。それは物質至上主義であり、エネルギーの追求であり、どちらかといえば、「自然の征服」という概念であったかと思う。かかる中で、私達は「人とモノ」という経済システムの構築を図ってきたが、ここにきて一つの大きな節目を迎えたといわれる。

翻ってみると、幸いにして、私達はエネルギー中心の工業化社会から、ある意味ではこのエネルギーを効率よく活用するデジタルネットワーク世界に突入したともいえる。

したがって、これまでの「人とモノとの環境」から「人間と情報との環境」という変貌への対応が今日人類社会の大きなテーマである。人間と科学技術そして地球環境や自然といかに調和するかがこれからの科学技術であり、社会でもある。したがって、再び「自然から学ぶ」という姿勢でなければならない。言い換えると、主体となる科学は生命科学である。私達はこれまでの産業経済システムから脱皮して、生態システムや人間の倫理観中心の新しい産業革命を興していかなければならない。言うなれば、物質文明から生物文明への展開である。こうした中で、情報産業に加え、生物学の視点に立つ新規産業の芽が幾つか出てきた。これら産業の育成に向けて、国家挙げての投資を続けることが肝要である。

本稿は、2001年11月10日（土）、大阪中央電気倶楽部開催の平成13年度（2000年度）東山会関西支部総会における講演の要旨である。

#### 4. 第6回 会員訪問

訪問先 大阪大学大学院工学系研究科電子制御機械工学専攻  
教授 白井良明氏(第23回・昭和39年卒)

訪問者 支部長 白木博明(聞き手)  
企画幹事 和田滋憲(記録)



8月21日、大阪大学吹田キャンパス内にある白井教授の研究室を訪問した。白井先生は視覚情報分野での智能ロボット、コンピュータビジョン、人工知能などを主な研究分野にわが国の第一人者としてご活躍中である。説明を聞いて先生の研究内容を一言で言えば、「ロボットの“視覚となる映像”の各種処理実験とその解析を行うことにより、ロボットが自律的に行動できる情報処理技術の研究開発」ということであろうか。各種の研究成果をパソコン画面で説明していただき、この分野の急速な進歩を感じた。工業用分野での生産ロボットの技術開発、現場での利用では我が国がゆるぎない世界の座にあるが、白井先生のご研究は、これから実用化が加速されるであろう高齢化社会対応の介護ロボットなど“生活環境に入り込むロボット”開発に欠かせないものである。

ロボットと言えば、「鉄腕アトム」のイメージが強い我々の世代だが、アトムのような“完全”「自律型ロボット」の実現は当面無理にしても、介護、留守番、災害救助などへ自律型ロボットが活躍する時期が早晩来るものと思われる。当然のことであるがロボット開発には先端技術の集結が必要で、我が国の産業への波及効果は計り知れない。

白井先生は現在、大学では学科長を務められ、近くではカナダでの学会参加などのご多忙の中、私たちの訪問に応じていただき感謝する次第である。技術的に夢の多い研究テーマに取り組んでおられる先生の今後の一層のご活躍を祈念したい。(文責 和田)

白木 大変お忙しい中、関西支部のためにお時間をとっていただき有難うございます。先生は関西支部の会員でよく総会に参加いただいておりますが、どのようなご経歴で現在の研究に至ったのでしょうか。

白井 子供の頃は愛知県岡崎市に住んでいました。高校は東海高校です。東海高校は当時、愛知県では旭丘、明和と並んで進学校で、名大に進みました。名大機械学科を出た後、東大大学院に入り、機械工学分野で工学博士号を取得しましたが、情報にも興味をもっていて、講義を取ったり、画像処理の研究をしたりしていました。その後、電子総合研究所（現在の産業技術総研）に入所し、この時から私の視覚情報の研究が始まり、現在につながっています。

白木 研究は非常にお忙しいと聞いておりますが、学内や対外的活動もそうなんですか。

白井 学会関係では昨年度まで電子情報通信学会の理事、人工知能学会の会長を務めていました。その他、情報処理学会、ロボット学会などの対外活動をしています。今年から国際パターン認識連合の副会長になりました。学内では現在、学科長をしておりまして、昨日も学科の概要を高校生相手にプレゼンテーションしたところです。

白木 先生には1995年に関西支部総会で講演をしていただきましたが、ご研究の分野は最近どうでしょうか。

白井 あれからこの分野の研究は急速に進んでいます。先日、カナダで映像情報処理の研究者が集まった学会に行ってきたのですが、約千人も集まりました。非常に研究が盛んで、これからもどんどん成果が具体化し、ロボットの発展にも寄与していくことでしょう。

白木 名古屋大学ではこの分野の先生はおられますか。

白井 はい、例えば機械情報システム工学科の福田先生がロボット研究でしっかりやっておられます。話は変わりますが福田先生は早大出身ですが、教授

に他大学の出身者のウエートが高くなることは名大の発展にとって良いことです。

白木 その通り、人事面で閉鎖的でない大学は発展しますよ。さて、先生のご研究の概要を説明していただけませんか。

白井 私は主としてロボットの視覚となる映像の各種解析手法の研究開発を行っています。この結果は自律型ロボットの動作をさせる指令の基礎となります。具体的研究内容はたくさんあるのですが、何と云ってもパソコン画面で見ただけのが分かりやすいと思いますので、最近の研究の一部をプレゼンテーション画面でご説明します。  
(パソコン画面では最近の研究発表用の動く映像等を見せていただき説明を受けた。以下、見せていただいた画面、その研究趣旨等を記載する)

視覚対象範囲内に動く物体がある場合、その中の人を判別し追跡する。  
(認識機能:これにより人を探したり、ロボットの衝突を避けたりできる)

複数人のうち特定の一人の動きを追跡する。

人の顔を認識し、かつ人の識別をする。  
(ヒューマンインターフェイス機能:この場合はロボットがその使用者を判断できる等の機能になる)

冷蔵庫の中ある物 (Ex. Coke 缶) を特定するための情報処理。  
今回の場合、(目的物を音声で指示して) 冷蔵庫の多種のジュース缶のうち事前にインプットされた Coke 缶の外観情報をもとに、一部でもその缶が見えれば目的物と特定する。  
(認識機能:周りの物の中から特定の物を認識する)

移動中にコース近傍の地図を作成しながらロボットが自律走行し、次の走行機会には以前の計測データに基づき最適コースを走行する学習性をもつロボットのデモ。  
(移動機能:移動経路の決定、障害物の検出などの機能)

複数の固定カメラから情報を受け、障害物を自己判断してそれを避けて走行する案内ロボットのデモ。

手話を音声(または文字)に変換するための基本的な手の動きデータ取得実験

(ヒューマンインターフェイス機能: 音声を使えない使用者の意思伝達)  
以上のいくつかは、対象物体の距離を求めるため、ヒトの両眼立体視と同様に2台のカメラを使っている。



説明中の 白井良明教授

白木 アメリカはロボット研究が盛んなのでしょうか

白井 はい、日米が世界をリードしています。アメリカでは研究はオープンです。研究成果として例えば自動車の自動運転ロボットが開発されていますが、軍事目的のための無人戦車もオープンに研究されています。

白木 高齢化社会に向け介護用ロボットの実用化が望まれています。身近で役に立つロボットがいつ商品として出てくるのでしょうか。

白井 世の中のニーズの高まりにもよるのですが、身近で役に立つロボット

の製作をどこかが受けてもらわなくてはなりません。  
眼の不自由な人のためのパソコンロボットなど、高齢化社会向けには情報が入ってこなくなった時に対応するロボットも研究されています。  
(注：ヒト型ロボット(ヒューマノイドという)はソニーとホンダが商品として世に出したが、まだ“身近で役に立つ”ロボットには至っていない)

白木 話は変わりますが、先生は以前3年ほど東大と兼任の教授をなさっておられましたが、学生の就職状況はいかがですか。

白井 いずれも機械系は+分の数の求人数があり問題は無いと思っています。もし問題があるとすれば、それは個人にあるのではないかと思います。気迫がない、優柔不断など企業社会に合わない人がいます。

白木 最後に会員にアドバイスをお願いします。

白井 機械をやった人はどの分野にも入っていけるから非常に有利だと思ふことが大切です。ちゃんとまとめてくれるのが機械工学出身者の特長と思っています。  
しかし放っておいてはいけません。常に危機意識を持っていなければ。機械工学を先端科学だと誰も見ていませんからね。ある程度大き目のことをやっていないと世の中に認めてもらえません。

白木 “機械出身の人はちゃんとまとめてくれる”ということは私も同感です。柔軟性に富んでいるということでしょうか。  
本日は先生には大変お忙しい中、ありがとうございました。身近で役に立つロボットが早く一般的になるよう、今後とも先生のご活躍を期待しています。  
東山会関西支部へのご支援も今後ともよろしくをお願いします。

## 5 . 我が生涯学習一邦楽と私



土川 昭（昭和27年卒）

岐阜県大垣市の周辺に多くの工場を持っていた大日本紡績に勤務していた父が相当な遊び人で、自宅に長唄の師匠が両親に教えに来ていた。「又、チントンシャンか」と思ったが、幾つかの曲は耳に残っていたことが後で分かった。

大学には3年間大垣から通学したが、名古屋の御園座の株主招待券の内、両親が見に来ない分は回ってきたので、授業の後、観劇する機会に恵まれた。当時の歌舞伎、新派、新国劇の名優の演技を観ることが出来たのは、今にして思えば誠に幸いであった。歌舞伎のBGMには多くの邦楽の名曲が使われているので、習ってみると、聴いたことのある曲があったので安心した。

卒業後父と同じ会社に入社したが、景気の良かったのは僅か数年のみ、後は苦難の連続、工場勤務時代に7年間謡曲を習った以外、三味線の伴奏付きの宴席で、『何かお一ついかが』というようなチャンスも無く、44年間の会社生活を終えることとなった。非常勤の身になって大阪倶楽部の会員になったが、先輩に勧められ長唄の会に入った。師匠は娘時代から家元の指導を受けた江戸っ子で80才を越えても元気いっぱい、会長、副会長は90才、会員の平均年齢は77才という高齢社会、入会挨拶では『土川君、年は』『若いねー』と言った具合。御稽古は先ず正座出来る時間が問題となる。15分を超えてくると足が痛くなり始め、師匠の三味線も掛け声も耳に入らない。『違うわよ』と叱られる事になる。年を重ねる間に耐えられるようになり、著名な師匠方の会を聴きにいく機会もあり、何とか上手に歌えないかと毎週の御稽古に頑張ってきた。もう一つの目標として毎日放送主催の「財界名人会」に出演する事を狙っていたが、残念なことに昨年から中止になってしまった。時の流れはこのような「粋な催し」をも押し流していくことを知った。

会自体は毎年「新年会」「ゆかた会」を会館内で開催するが、会員の減少もあり、段々寂しいものとなってきた。北浜の「花外楼」での「やかた会」も懐かしい思い出になってしまった。大阪の他の倶楽部の邦楽会は殆ど解散したと聞く。何とかこの会を続けたいと念じている。

話を子供の頃に戻そう。父は大垣のお城の側の料理屋、待合の集まる町に土地を持っていた。母は『お前が大きくなったら此処に家を建ててやる。そうすればお父さんのように三味線を聴きに家を空けなくても、家に居て聴けるからね』と言っていた。しかし、終戦の混乱の中で人手に渡り、今では「文福」という料理屋が建っている。あれは母に化けた「狸」の嚙だったのかな。

## 6. インフォメーション

### 名古屋大学博物館

名古屋大学博物館は本学所蔵の学術標本の研究フィードバック・資源化・社会還元を総合的にかつ国際的に行う全学施設として、2000年4月に創設された。しかし新しい施設ができるまでは、古川図書館(“古川総合研究資料館”)の一角を活動拠点に今日に至っている。この古川図書館は1964年古川為三郎氏と志ま夫人の篤志により名古屋大学に寄贈され、1981年までは付属図書館として利用されて来たものである。

1982年現在の新付属図書館が完成した後ば古川研究資料館”及び“中部地区自然災害科学資料センターまたは年代測定資料研究センター”として活用されて来たが今回そのまま名古屋大学博物館に引き継がれ、21世紀においてさらに大きく発展しようとしている。以上は名古屋大学博物館要覧に記されている展示案内の要約である。

一読して名古屋大学博物館の誇るべき所蔵品の一例として

日本最古の岩石(花崗片麻岩確約21億年前)

円磨ジルコン(約30億年前)

ジュラ紀の放散虫化石(環太平洋各地からの放散虫化石3万点は世界標準)

などが世界に誇るべき代表的な所蔵品の一例であるが遺伝子工学など先端科学の進歩で総合科学は、ますます重要になってくる。一般的には環太平洋圏の自然、文化のコレクションに優れているとされているが、東海地震予報にも科学的先駆性を期待したい。

国立7大学の博物館設立状況は

設置大学名	博物館名	設置年度	教官定数	学内線標本数(万点)
北海道大学	総合博物館	'99	8人	410
東北大学	総合学術博物館	'98	8	240
東京大学	総合研究博物館	'96	9	646
名古屋大学	博物館	'00	7	235
京都大学	総合博物館	'97	8	250
九州大学	総合研究博物館	'01 予定	7	650

文部科学省調べ

人文科学、自然科学の両系を有する総合大学のメリットと日本の中心部にある地域圏の優位性は多大の社会的貢献に視するものと思われる。筆者の訪ねたときは医学部が“医の心”と題して所蔵教育資料と標本の特別展示の日であった。時々テーマを代えているようです。母校訪問の時には訪ねてみてください。

TEL 052-789-5967 FAX 052-789-2041

URL <http://www.num.nagoya-u.ac.jp>

7 - 1 . 名古屋大学遠州会について  
乾 昇 (昭和23年卒)



平成8年4月17日、静岡県西部の遠州地区在住の名古屋大学卒業生を対象に、「名古屋大学遠州会」が設立された。

第1回同窓会は設立総会に続いて行なわれ、総会は2年毎に開催するが、同窓会は毎年やろうという声が強くなり毎年開催、今年は早くも第7回となった。

毎年、卒業生の転入、逆に地区外への転勤等で実数の把握は難しいが、当地区内には、1,000名近い卒業生がいると推定される。最新の名簿では工学部の153名(内機械は63名)を筆頭に483名の同窓生が登録されている。

過去の出席数は、第1回は約150名だったが、2回目以降は約100名が続いている。

本年度の総会で、会長は大久保忠訓氏(医学部昭和21年卒)、不肖私他1名が副会長に再選され、さらに副会長1名が新任された。

主たる事業は毎年の同窓会であるが、如何にして出席者数を確保するかが一番の問題である。会長以下、各学部幹事約20名が年間4~5回会合を持ち、次年度の計画を立てる。何と言っても、メイン・プログラムは記念講演で、第3回には山田壽勝氏(機械昭和23年卒・当時愛知技術短期大学学長)に「伊良湖岬の鷹」を、第4回には太田博氏(機械昭和32年卒・愛知工科大学学長)に「身近に見られるふしぎな運動の解析」をお願いし、好評を得た。アトラクションとしては、市内の高校生にバンド演奏をお願いしたり、苦勞をしている。

今回は第7回で、総会があるので記念講演だけとし、「宇宙飛行とからだ」と題して昭21医学部卒・名大名譽教授御手洗玄洋氏にスライドを使って難しい内容を分かりやすくお話し頂いた。

特別参加として横浜から来られた、名大名譽教授で日本原子力産業会議顧問の山本賢三氏が、学士会加入をお願いしたいと演壇に立たれ、「せいぜい40~50人程度の会合だろうと思って来たら、なんと100人も参加とは驚きました。東京でもこの程度です」と語られたのを聞き、ちょっと良い気分になった。

この山本先生は東大工学部昭和12年卒であるが、90才とは思えないお元気な方であった。名大創立には最初から関わってこられたとのことで、小林明先生や土井静雄先生のお名前を出されたので、「私も両先生に教えて頂きました。とくに、土井先生は卒論『旋盤加工のびびり』の指導教官でした」と申し上げたところ、昔の話が通じる人がいたと喜んで下さった。

お待ちかねの懇親会はまさに盛況で、各テーブルにマイクが回って自由スピーチ。参加者の中には、女性も文・教・医・理学部卒の各1名計4名がおり、最年少は平成10年卒とバラエティーに富んでいてテーブル毎の話も尽きない。5時半に始まった集いも、いつの間にか9時を過ぎ、来年の再会を期しながら、名残を惜しんで解散。



## 7 - 2 . 東山会に入会して 36 年が経過しました (雑感)

塩野義製薬 (株) 若山 義兼 (昭和 41 年卒)

東山会に入会して 36 年が経過しました。現在では、機械工学と少し距離をおいた医薬品の製造品質監査が専門となりました。監査は GMP (Good manufacturing practice) 規則及びコーポレートガバナンスの視点に立ち実施しています。医薬品が他産業の製造物と著しく異なっている点は、薬物が直接人体に作用することかと思われます。体内における薬の反応は患者さんの苦しみを和らげることにあります。しかし、適正に使用されず、また、製造で間違いが生じ見逃されて流通すると、人間の生体に負の作用が働き、苦しみから一転死に至る可能性もあります。このため、米国 FDA、国際保健機構 WHO、厚生労働省では GMP などを制定しています。国際的にもハーモナイズされる方向にあります。食品業界では、牛乳の菌汚染が社会問題化した。HACCP、食品衛生法のありかたも問われています。

さて、東山会に話を戻します。昭和 40 年ですが、卒業研究として自動制御 (勿論、アナログ全盛時代でした) を決め、伊藤忠也教授、藤井省三助教授 (当時) の教室に入りました。自動制御は機械工学の分野なのか、電子工学の分野なのかを議論された時期であるとのこと、後日伺いました。しかし、今想えば、どちらでも良いのではと思われます。制御対象から最適化を図るか、制御手法から最適化を図るかの違いであるように想われます。単一技術が複合技術化されていく過程でありました。

機械の講座は、工学部 3 号館でしたが、最適化制御の実験室は 1 号館でした。ボイラー効率の最適化がテーマであり、空気混入率などの要素をパラメーターにして CO2 濃度の変化など完全燃焼に向けた静特性把握を目的とした燃焼実験が主体であったように記憶しています。熱力学の研究室でもないのに、何のために燃焼実験が必要なのが当時はわからないまま、実験していたことが思い出されます。意味することがようやく分かったのは、卒業研究論文作成に着手してからでした。指導教官の論文や修士の先輩の技術資料を、分からぬまま写し取っていく内におぼろげながら、分かってきました。投稿を契機に入会当時を思い起こしてみました

卒業してからは、医薬品製造設備のエンジニアとして無菌注射製造装置、最終包装機械の構築など高度成長期を支えた 31 年間を経て、最近では、冒頭に記述しましたように、監査が業務です。

医薬品監査だけでなく、ISO9000, 14000 に審査員補として関わり合いを持っています。最近では、審査登録機関の乱立もあって、審査能力のばらつきを生み、第三者審査登録の信頼性を損なう危険性をはらんでいるといわれています。被審査側から能力のある審査員に審査をしてもらいたいという声もあがっている。会計監査では、エンロンの事例では何のための監査かといわれる状況である。第三者による「監査」は、必要事項であります。これからは、「監査」そのものが、検証される状況をむかえつつあります。国際的な監査規格は、これまで QMS (品質)、EMS (環境) の 2 本立てであつたが、マネジメントシステムの統合もあって、全面的に 2002 年 12 月に一本化されます。最終のドラフト (FDIS) 段階ですが、この中では、監査員の能力・資質とともに、能力評価が設けられることになった。ものづくり、流通、販売などのすべての活動が市場・顧客・社会など広義のステークホルダーの立場に立ったバリューチェーン化してゆく中で、監査も同一の動きなってきた。最近の活動から、とりとめもなく雑感をまとめてみました。

### 7 - 3 . 産学官連携について

京都リサーチパーク（株）  
菊田 隆（昭和 45 年卒）



6月22、23日、京都国際会館にて第1回産学官連携推進会議が開催されました。土、日にもかかわらず尾身科学技術政策担当大臣をけじめ各界の代表者など3700名もの人々が参集し、大変熱のこもった議論が展開されました。かつて日本が世界経済の先頭を突っ走っていた時代が遠い昔のように思われるほど、ここ10数年に亘る経済の低迷はわが国にとって根の深い深刻な病ではないでしょうか。米国経済が1990年代に目覚しい再生をとげた要因の一つが、大学の技術を積極的に産業界に移転させたことにあるとの認識のもと、遅ればせながらわが国も同様の政策に力を入れようとしています。制度的にも大学の技術、特に特許などの知的財産を産業界に移転する仕事を専門に行うTLOの設立や、国立大学の平成16年度からの独立行政法人化などの他、昨年6月に発表された平沼プランの中の“平成20年までに大学発ベンチャー1000社創出”に向けたさまざまな支援事業が計画されています。戦後の日本経済の復興を牽引してきた製造業が中国などの台頭で苦境に立たされている今、これからの日本の産業再生には従来にない新しい産業の構築が必須であり、その実現のために大学の保有する技術ポテンシャルへの期待が非常に大きいわけであります。

さて、以上のような話をさせていただきましたのは、私が現在所属しています京都リサーチパーク（株）【KRP】の紹介をしたかったからであります。13年前に大阪ガス京都工場を閉鎖する際、その跡地をどのように活用するかいろいろ議論されました。

ホテルやアミューズメント施設などの商業施設も候補にあがりましたが、やはり公益企業という観点から、地元京都の産業活性化に資することを目的に、まだ日本では馴染みの薄かったリサーチパークが設立されることになりました。7haの敷地に12棟の建物が建設され、京都市工業試験所、京都産業21、京都高度技術研究所などの公的機関も入居されて、京都の産業振興に一緒になって努力しています。KRPの大きな特色は、約180社のテナントの大半がベンチャー企業であり、KRPがこういったベンチャーの起業支援に力を入れていることです。また最近では関西TLO（Technology Licensing Organization）と連携しながら大学発ベンチャーの育成、支援事業にも取り組んでおり、京都における産学官連携を推進する有力拠点として実績をあげつつあります。ご興味あります方は一度<http://www.krp.co.jp/>を覗いてください。

ところで、最初の第1回産学官連携推進会議に戻りますが、各界を代表する著名人の講演の中で、日亜化学工業からUCサンタバーバラ校に転出された中柿教授のお話が興味を引きました。「日本では大学発ベンチャーなど創出できない。有名大学、大企業を目指した画一的な受験勉強にドブ付けにならざるをえない若者に、ベンチャーを興そうという異端児的な発想は期待できない」制度や仕組みをいくら準備しても、そこで活躍するプレイヤーが次々と登場しなければ……………。

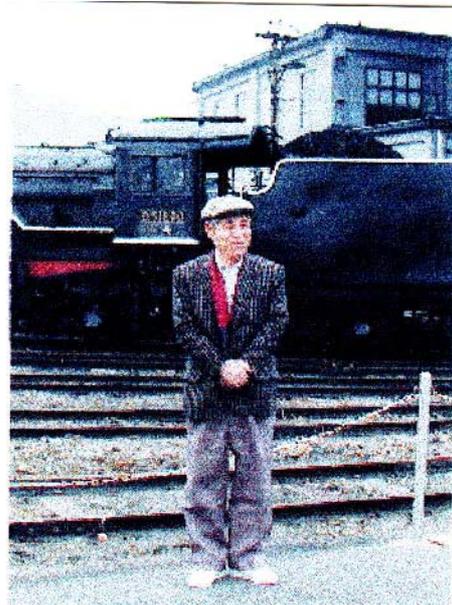
## 8. 会 員 消 息

石谷清公様（昭和 18 年卒）平成 13 年 9 月ご逝去

第 1 回卒業生として関西支部創設にご尽力頂きました。

ご本人の意志で葬儀告別式は行わず、後日支部に頂いたご挨拶状をそのまま掲載しました。写真はご子息から頂いたもので機関車實習の思い出でしょうか。

ご冥福をお祈りします。



京都・梅小路蒸気機関車館にて

東山会の皆様

謹んでご報告させていただきます。

父、清公が亡き母のもとへ召されました。9月18日午後10時43分で行われました。生も根も使い果

たし、総ての煩悩も自然に消滅し、精一杯誠実に生きた人だけが得られるような、大好きな賛美歌を BGM に、大好きな在京の娘からの電話を通じての声を聞いた直後の、自宅での静寂な安堵感に満ちた最期で行われました。81 歳まであと 9 日で行われました。

亡き母の在宅介護を 27 年 8 ヶ月、現在のような社会的仕組みも、便利な介護用品も無い中、しかも一人で成し遂げた父に相応しい、愛と誠で満ちた生涯を終えました。あたかも生まれ落ちた赤子が、口々新しい能力を身に付けていくのとまったく逆に、卓越した能力を一つ一つ、律儀に天にお返しするが如くの晩年で行われました。最後には僅かに残ったエネルギーさえも燃え尽くして、本当に無垢で清らかな魂だけになっておるやに思えました。お医者様からも「老衰」という、父の願い通りの勲章を授けて頂きました。

こんな父を私は誇りに思い、父の最期の貴重な非常に密度の濃い充実したひとときを妻明美そして優しい犬ノアと共に過ごせた事の幸せを感じております。

お陰様で、父の希望通りに入院や切った貼ったもせず、これ又父の希望で葬儀・告別式はおこなわず、普段着のまま自宅で、家族・父母の兄弟を中心に静かにお別れをさせて頂く事が出来ました。

生前に賜りました、暖かきお心遣いに、永きにわたるご厚情に深く深く御礼申し上げます。皆様におかれましては、どうかどうかお健やかに過ごされますよう、心より祈念申し上げます。

ありがとうございました。

石 谷 一 清

追伸：父より、ご香典・ご供花等、一切頂戴してはならぬとの強い指示を受けております。僭越ながら何卒ご理解賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

## 9 . 平成 1 3 年度東山会関西支部総会報告

庶務幹事 荻原稔蔵 (昭和 4 3 年卒)

第 3 9 回関西支部総会は、平成 1 3 年 1 1 月 1 0 日 (土) 開催された。会場は例年と同じく中央電気倶楽部を使用し、時間は 1 6 時 - 2 0 時であった。

出席者は 2 5 名で、一番若い方が昭和 4 3 年卒という事で若手の出席が芳しくなかった。

御来賓は本部の鈴木隆充 会長 (堀江金属工業社長、昭和 3 3 年卒) と田中英一 名古屋大学教授 (名古屋大学大学院・工学研究科・機械情報システム工学専攻、昭和 4 7 年卒) 新田恒治 松下電器産業(株)客員 (元技術担当役員、昭和 3 5 年理学部卒) が御出席された。

1 0 月 1 0 日理学部の野依教授がノーベル化学賞を受賞するという朗報の後であり、参加者からは賞賛する声が相次いだ。

### 1 講演会

時間 1 6 時 - 1 7 時半

司会 清水副支部長

( 1 ) 田中英一 名古屋大学教授の講演

テーマ「大学の近況について」

わざわざ名古屋からパソコン・ビデオプロジェクタを持参して頂いた。又デジカメで最近の東山キャンパスの様子を撮影され、御紹介して頂いた。

最近の東山キャンパスの様子をビデオで説明された。平成 1 2 年に工学部新 1 号館増築部分が完成、平成 1 3 年には工学部新 2 号館が完成し電気・電子・情報が移転した。平成 1 4 年には 2 号館が改築され、機械・電子機械・航空が移転する。

環境学研究科が平成 1 3 年に設置された。

外部評価委員により、各学科の評価が行われている。

田中先生が担当されているトヨタ寄付講座「ヒューマンライフ支援バイオメカニクス」の終了の報告があった。引き続き継続する方向である。

島田先生 (電子情報学専攻) を助ける会の活動報告があった。 8 0 0 0 万円の寄付が集まった。

( 2 ) 新田恒治 松下電器産業(株)客員の講演

テーマ「2 1 世紀の技術革新—情報技術革命の視点から」

新田様は名古屋大学理学部を卒業された後、松下電器産業に入社され中央研究所長、研究・環境本部長等を歴任された。又大阪大学、名古屋大学の非常勤講師を勤められた。

O H P を 2 0 数枚用意され、説明していただいた。以下に講演の要旨を纏めた。

最初の情報革命は 1 5 世紀半ばのグーテンベルグによる金属活字印刷機の発明

である。

最初の工業化社会は18世紀の半ばに始まった蒸気機関によるイギリス産業革命、その後製鉄を核とする素材産業が興り、電力ネットワークの誕生、化学の進展、自動車の発明が加わる。20世紀に入って、原子力、コンピュータ、高分子化学が生まれる。

19世紀前半、電磁気学の誕生とモールスによるツー・トン電信機の発明がされた。その後ベルが音声の多重電信（電話）に成功した。そしてマルコニは無線通信システムの発明を成し遂げた。

その後ラジオ、テレビ、ビデオ、コンピューター、ファックス、パソコン、携帯電話等の情報システムが生み出された。さらに光ファイバや衛星による通信システムの開発により、ネットワークシステムが拡大している。現在一日の電子メール数は10億通を越えている。

地球に関し2025年には世界人口は85億人になる。（1998年60億人）その内の84%が発展途上国と考えられる。

地球の年齢は46億年、生命体は誕生して35億年である。動植物の種は160万でその内80万が昆虫であり、昆虫は10億年以上生き延びている。

我々は生物に学び、生物学の視点で考えていく事が大事だ。

21世紀「自然から学ぶ」という姿勢で、技術革新と産業の育成をしていく必要性を訴えられた。

## 2 総会

時間 17時半 - 18時

司会 青山幹事

(1) 御来賓挨拶として鈴木隆充東山会会長が挨拶された。

6月に第3回東山へ帰る日（S25、26年卒業生）が行われた。

東山会の財政状況は厳しい。年会費を御願いするとか検討をする必要性を話された。

島田先生を助ける会の報告、来年の1月4日新年同窓会を行う事を報告された。

(2) 白木支部長挨拶

御来賓の鈴木会長、田中先生に対し謝辞を述べられた。又田中先生、新田様の御講演を賞賛された。

野依先生のノーベル賞の受賞は今年の総会で話が出た。これに依り名大に対する応援が増すと話された。

東京支部は昔活動をしていた事があるが、それを復活して欲しいと訴えられた。

(3) 会計報告が山田会計幹事からされた。年会費が昨年96名が86名に減っている

訴えられた。

(4) 一般報告を荻原庶務幹事がし、支部役員会2回開催、支部便りの内容、案内状の送付でS44以降の卒業生の返事が7%であり、出席者がいない事を訴えた。

### 3 懇親会

時間 18時 - 20時

司会 荻原庶務幹事

写真撮影 山田会計幹事

乾杯の音頭 和田さん(S43年卒)

囲碁同好会の報告 青山幹事

10月27日 中央電気倶楽部で5名が参加して行われた。優勝 岩田さん(S30)、2位 鷲田さん(S32)、3位 古潭さん(S32)

ゴルフ同好会の報告 野崎幹事

11月2日 天理ゴルフ倶楽部で4名が参加して行われた。オープン戦で行ったが成績が良かったのは山田さん(S33)だった。

その後各人のスピーチに移った。川口さん(S20)の囲碁大会のスピーチ、雨宮さん(S18)のスピーチ、馬淵さん(S20)から古代史研究のスピーチがあった。

山本さん(S23)から「東山へ帰る日」の感想が述べられた。

その後有志が前に出た。八高出身の山本さんが「伊吹おろし」の解説を朗読され、皆で学生歌「若き我等」、八高寮歌「伊吹おろし」を歌った。続いて白木支部長が六高校歌を歌われた。

和田さん(S43年)から関西支部の進め方、川本さんから健康法のスピーチがあった。有志が前に出て、前田さん(S23)から寮歌に関する説明があり、皆で「琵琶湖周航の歌」「北帰行」「人を恋ふる歌」を歌った。

松田さん(S28)から「出席者名簿に趣味を載せたらどうか」と提案があった。

最後に佐藤副支部長が閉会の辞で「昨日迄、粉体工業展が行われた」と述べられた。その後清水副支部長の三本締めで締めくくった。

終始和気蕩々とした雰囲気だった。

# 10.平成13年度東山会関西支部会計報告

期間：平成12年11月18日より平成13年11月9日まで

収 入		支 出	
	¥		¥
12年11/18の総会会費 (9000¥×25人)	225,000	12月1/18の総会費用	209,284
本部祝金	50,000	電気クラブ	8,876
年会費 (2000¥×86人)	172,000	写真代	13,860
預金利息	392	通信代	80,349
		総会案内製作費	69,947
		総会案内発送費	48,377
		会議費	5,219
		コピー、事務用品	45,592
		旅費、その他	
収入合計	447,392	支出合計	481,504
前年度繰越金	414,869	次年度繰越金	380,757
合計	862,261	合計	862,261

以上のとおりご報告致します

会計幹事 山田 晃



以上の報告は適正なものとお認めます

会計監査 森瀬和信



11. 東山会関西支部便り過去6年間の主要記事・記録一覧 02/11 現在  
(敬称略)

支部長ご挨拶

各号参照ください

大学の近況

大野信恵大学院教授	H 9号 総会報告
竹野忠夫大学院教授	H10号 総会報告
山下博史大学院教授	H11号
田中啓介大学院教授	H12号
早川義一大学院教授	H13号
田中英一大学院教授	H14号
新美知秀大学院教授	H15号 自筆予定

会員特別講演要旨

粉体工業（パウダーテック）	佐藤文雄（昭和27年）	H 9号 総会報告
ブラジル裏話	土川昭（昭和27年）	H10号
深海底マンガン団塊採鉱システム	清水徹（昭和48年）	H11号
最近の環境問題と企業の取り組み	和田滋憲（昭和43年）	H12号
新ミレニアムを迎えて	兼松昭（昭和39年）	H13号
21世紀の技術革新	新田悦治（昭和39年理）	H14号
中国人と付き合うには	川本利治（昭和33年）	H15号 自筆予定

会員訪問

第1回 安田幸伸（昭和39年）	松下電池	白木/深谷	H 9号
第2回 山口理郎（昭和29年）	ダイハツディーゼル	白木/山田	H10号
第3回 和田明宏（昭和31年）	アイシン精機	白木/清水/深谷	H11号
第4回 岩田恒雄（昭和30年）	関電化工	白木/深谷	H12号
第5回 江副 茂（昭和30年）	TOTO	白木	H13号
第6回 白井良明（昭和39年）	大阪大学	白木/和田	H14号

我が生涯学習

木 彫	錦辺一之（昭和17年）	青山記	H11号
古代史探訪	馬淵修（昭和20年）		H12号
俳句への道	松毬清文（昭和23年）		H13号
邦楽と私	土川昭（昭和27年）		H14号

## 会員投稿

「東山へ帰る日」に参加して	工藤 廣（昭和 17）	H9 号
東山へ帰る日	後藤武次（昭和 17）	H9 号
同期クラス会 '96 年度アンケート調査	川口啓三（昭和 20）	H9 号
初代支部長 栖宮勇二氏を偲ぶ	工藤 廣（昭和 17）	H10 号
第 2 回東山に帰るに参加して	前田芳郎（昭和 23）	H11 号
同窓会が産学連携の一翼を	清水義一（昭和 31）	H11 号
応用数学入門を訳して	王国英行（昭和 21）	H12 号
Golf in New York	古潭裕（昭和 31）	H12 号
バルチラディーゼルとトフィンランド	伊藤敏哉（昭和 42）	H12 号
工学育成と技術者育成	堀内達央（昭和 48）	H12 号
永田直明氏を偲ぶ	雨宮陽三（昭和 18）	H13 号
光崎雅夫君を偲んで	小澤喬二（昭和 28）	H13 号
第 3 回東山へ帰るに参加して	山本順一（昭和 23）	H13 号
胃の手術を体験して	鷲田俊司（昭和 32）	H13 号
激動の時代の中国体験記	川本利治（昭和 33）	H13 号
DVD 開発について	後藤芳和（昭和 48）	H13 号
母校を訪ねて	白髪昇三（昭和 52）	H13 号
名古屋大学遠州会について	乾 昇（昭和 23）	H14 号
東山会に入会して 36 年経ちました	若山義兼（昭和 41）	H14 号
産官学連携について	菊田隆（昭和 45）	H14 号
会員の皆様へ	石谷清公様（昭和 17）ご令息	H14 号

## インフォメーション

啐啄（そったく）	H10 号
名古屋大学出版会	H10 号
双葉会（電気電子学系同窓会）	H11 号
石化会（応用化学系同窓会）	H11 号
共晶会（金属学系同窓会）	H12 号
鏡ヶ池会（土木工学系同窓会）	H12 号
高翔会（航空学科系同窓会）	H13 号
健友会（分子化学工学科系同窓会）	H13 号
名古屋大学博物館	H14 号

## 会員消息

各号参照ください

総会報告・会計報告・支部幹事会報告・編集後記・支部役員名簿は各号参照ください

## 12. 編集後記

21世紀に入り、創設60年は決して短い年ではない。社会のあらゆる分野で大きい変化が起きている。起伏半世紀を還暦で乗りこなした名古屋大学は日本の一中部地区の中核大学といつも言われているより、日本を代表して世界に発信する大学と言ってもらいたと誰しも思う。大学が変わる。同窓会も転機を迎えている。畏友乾兄にお願いして遠州名大会の行き方を寄稿して頂く。一つの参考にしたい。乾兄は関西支部発足時とともに走り回った方で平成12年度支部長挨拶で支部発足黎明期に名記した方で当時、関西におられた。名大発足後最初に発足した東山会関西支部は一学部学科単位では東京圏に次いで大きいと思われるので今後とも責任が重い。

支部長訪問では東山会員で、ご当地阪大で電子制御機械工学専攻のロボット博士としてご活躍中の白井教授を研究室にお訪ねした。かねて訪問したい方の筆頭のお一人で、新進気鋭の新幹事に同行願ひ、纏めて頂く。会員寄稿では40年代卒の中堅どころから、急速に構造の変化する産業界の現実をかいま見せて頂いた。土川様の邦楽のご趣味に、経済人の人間性の側面をを拝見する。1期の石谷清公様のご子息より頂いた東山会の皆様へと書かれた手紙はそのまま会員消息の欄で転載させて頂いた。旧知の方々には多く思いのある方がおられると思いますが、家庭の大切さに感動しました。関西支部便りが、高い評価を頂いているのも、同窓諸兄がご多用の中を時間を頂き、また支部運営を支えて頂く幹事諸君の裏方の努力のお陰と厚く感謝申し上げます。

今回支部役員に一部変更がありました。古川久好君が幹事を退任し、和田滋憲君が新幹事に就任しました。また一部住所変更や電話番号の訂正もありますので所用の時は確認ください。

(S)